



皆様のご参加・ご協力のおかげで平成 20 年度も無事終了し、新年度が始まりました。ありがとうございます。昨年度の事業につきまして、後半を中心にご報告します。



筑波山麓谷津田再生事業

活動場所: つくば市神郡

活動 DVD とハンドブックが完成!

「生きものと共存する米づくりには年間のべ 476 名の参加がありました。米づくりボランティア 25 名は作業日にも活動、草取りやイノシシ柵設置に汗を流しました。苦労の甲斐あって無農薬の美味しいコシヒカリ 1255kg、黒米 25kg を収穫しました。冬季溜水の成果で水生生物が増えてきています! 今年も溜水して、準備中。ご参加を!

3月22日シンポジウムを開催。40名が参加して、活動ビデオ上映と交流で楽しく過ごしました。DVDは貸し出します。希望者へご連絡を。ほしい方には実費で。



【地球環境基金助成事業】



筑波山麓・森づくり活動

活動場所: つくば市神郡・白井・六所

9月27日	竹林整備、チップ化作業(神郡)	8名
9月28日	竹林整備、チップ化作業(神郡)	11名
10月25日	雑木伐採・下草刈り・薪づくり(神郡)	35名
11月29日	スギ・ヒノキ植林地間伐作業(白井)	31名
12月13日	竹林整備、チップ化作業(神郡)	20名
12月14日	竹林整備、チップ化作業(雨天のため中止)	-
1月10日	竹林整備(神郡)	22名
2月7日	スギ・ヒノキ植林地 間伐材の処理(白井)	13名
2月21日	スギ・ヒノキ間伐材でベンチ作り(白井)	16名
3月7日	植樹祭(神郡) シイタケ植菌講習会	60名
4月4日	植樹祭(六所) 3月7日の残りの植樹	26名

冬場の森林整備には、緑の募金公募事業・茨城県元気な森づくり活動支援事業などの助成金を活用して取り込みました。参加者はのべ 327 名。間伐をしてベンチをつくる活動が雑誌「つくばスタイル」で紹介されました。12脚できたベンチは整備した白滝古道等に設置します。



竹林整備ではチップが大活躍! 六所の方々とヤマザクラとコナラ竹のチップは植樹地の抑草に敷いて活用します。200本を植樹しました。国際交流団体ナイスの若者たちも応援参加



都市農村交流 すそみのふるさとづくり

活動場所: つくば市六所



集合した白滝古道整備の応援団 白滝に置いたベンチ

筑波山麓の魅力や様々な活動を、地域情報紙「すそみろく」で発信し、都市部からの応援団を得て山麓が元気になることを目指しています。山中のかつての参詣道「白滝古道」整備に、地元の方々と応援団とで取り組み、全線が開通しました! 気持ちのよい静かな山道です。今後、道標をつけ、マップを作る予定です。【全労済地域貢献活動助成事業】



筑波山麓自然学校

活動場所: つくば市白井(筑波ふれあいの里)

冬季は里の暮らしや文化を学ぶ講座を開講しました。炭焼き講座は荒天のため、1日目が中止になり、2日目に凝縮してドラム缶窯で竹炭を焼く活動を行いました。窯開けは翌週におこないましたが、大変よい炭ができていました。毎年人気の「100キロのみそづくり」「水車のそばひき・そばうち」には、今年もたくさんの参加がありました。この数年、沢水の量が少なく、玄そばを全量挽けないことが残念です。20年度は年間10講座を開講し、のべ361名の参加がありました。【つくば市委託事業】



窯開けに集まった参加者。今年は2つのドラム缶窯で焼き、とてもよい竹炭ができました。



水車でまわる石臼。かつてこの地域にはたくさん水車があって粉挽き業が営まれていました。



筑波山ファンクラブ

活動場所：筑波山・加波山・宝篋山他



1月は例年、茨城県博物館が実施する菅生沼の野焼きの協力に出向いています。タチスミレなど湿地の絶滅危惧種を守るため、防火帯を刈ってヨシ原に火をつけました。3月は宝篋山で早春の花々を観察しました。20年度は12回観察会や調査を実施し、のべ130名の参加がありました。



しぜんっこくらぶ in ゆかりの森

活動場所：豊里ゆかりの森

1月は「竹ご飯とどんど焼き」、2月は「七草がゆ」、3月は「よもぎだんごづくり」と寒さを吹き飛ばし野外で楽しい行事を実施しました。20年度は火曜日、金曜日の2クラスが10回ずつ活動し、のべ参加者数は1490名と過去最高でした！ただ、今年度は雨天順延が相次ぎ、参加者の増加に伴うスタッフ不足等の課題が残ったため、21年度は雨天プログラムを用意しての実施や、部屋の確保、1クラスの人数削減等の対策をとることにしました。



竹筒を焚き火にかけてご飯を炊きます。竹の香の美味しいご飯ができました。



春一番のヨモギを摘んで、お団子をつくりました。グループワークで交流もはかれます。



オオムラサキの棲む里山づくり

活動場所：下平塚くぬぎの森・保健保安林・島名小学校



森ボラで、子どもたちも参加して松林の間伐を行ないました。筑波学院大の学生も参加。



島名小の子どもたちが、授業の一環で、飼育舎の越冬幼虫の観察と回収をしました。

つくばエクスプレス沿線開発でなくなる森からレスキューしたオオムラサキは、島名小の飼育舎で子どもたちに見守られながら毎年育っています。増えた幼虫と成虫(蝶)を、森ボラで整備している保健保安林へ少しずつ放しています。元の生息地と整備した森は2キロ程度、成虫の行動範囲内の距離です。整備を進めている今後も残る森にオオムラサキが定着できれば、その自然の状態がとてもよいことの証拠にもなります。20年度森ボラは9回実施し、参加者はのべ91名、少数精鋭部隊でがんばっています。【エコーいばらき環境保全基金助成事業】

今年度も11月の科学フェスティバルにブースを出し、オオムラサキの幼虫観察や里山クイズ、エコバックづくり等を行ないました。国民文化祭の一環として実施されたので、会場には麻生首相も来場されました。また、幼虫を連れて、田水山小・栄小などへ出張授業に出向きました。



科学フェスティバルのブース



小学校での授業



里山こどもワンダーランド作戦

活動場所：下平塚くぬぎの森・保健保安林



カブトムシのために落ち葉積み



森の中の基地作り

自然豊かな里山を子どもたちの体験活動の場にすることを目指して、森ボラと同じ日に、小学生を募集して、森の探検・生きもの調査・森の手入れ体験・森の中に基地づくりなどの活動を行ないました。約20名のメンバーが大学生のボランティアリーダーにサポートされて7回の活動をおこないました。【子どもゆめ基金助成事業】

旅立ち 森ボラや田んぼのボランティアに来てくれていた筑波大生の田村理貴君は群馬県庁へ、一昨年のスタッフだった石崎理有君はヤンマー(株)へ、昨年のスタッフ小畑知未さんは日本国際湿地保全連合へ就職されました。おめでとう！

事務局 昨年後半より野村真一さんが事務局スタッフに加わり、5月から松山裕子さんが入ります。田中・永谷・中島・飯田・原に加え7人となります(田中・原以外は非常勤)。原博さんは東京電力から出向のボランティア支援スタッフです。どうぞよろしくお願ひします。